

一枚の絵から創造的な立体空間を作り続けて30年 技術と人格の融合を目標に、 より良い作品と環境づくりを目指す

日本美術工芸

日本美術工芸(町田市鶴間、村田修社長、042・796・0775)は昭和55年の創業以来、小さなオブジェから数十メートルもある巨大なモニュメントまで、多くの美術造形作品を手掛けてきた。

「立体、建築構造物、デザイン、美術社会風景を原点から見直し、創意工夫を軸として技術、感性の向上を求め、常に改善の精神を基に顧客並びに社会から高い評価を獲得することを使命とする」という方針を掲げ、顧客のニーズに対応した造形物を高い品質で具現化している。また、一級建築設計事務所、一般建設業の登録をしており、建築物の構造計算も得意分野の一つである。

村田社長は、岡本太郎アトリエに在籍して岡本太郎氏や著名デザイナーである佐藤卓氏と出会い、屋内外造形物の企画・設計・製作・施工についてのノウハウを習得した。大型テーマパークのイベント、パレードカーなどを数多く手掛け、その技術力、組織力が高く評価され、今後もさまざまな分野での活躍が期待される。

設計チームによる2D図面



製作中の作品と村田社長

から3D解析にいたる設計作業のシステム化を実現しているほか、製作部門では、作業効率、作業精度を高めるためにデジタル技術の導入を推進。DG部門では、最新鋭のUVデジタルプリンターをはじめ、さまざまなメディアに対応するためのインクジェットプリンターを複数台保有している。立体造形物のデジタル化も進行しており、NCマシンによる原型の製作も可能となった。今後さらに規模を拡大するため、最新鋭の5軸型NCマシンの導入を進めているところだ。

複雑化する社会環境において、Win-Winの関係が最も理想的と考える同社にとって、組織の基本はあくまでも人。社内満足度、顧客満足度、社会貢献度、この3原則を念頭において、技術と人格の融合を目標にこれからもお客様の夢を形にしていこう。



こどもの城前のモニュメント「こどもの樹」